

飯豊・梅花皮沢・門内沢 山スキー

木下

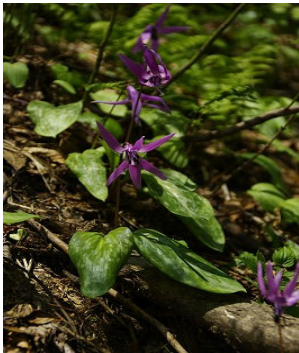
【日時】 2012年5月26（土）～27日（日）

【メンバー】L木下 中村 長谷川

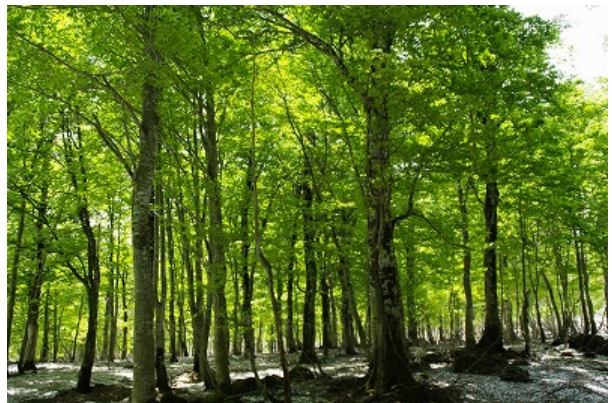
今年のGWは悪天で思い描いたルートには行けず、散々でした。もう山スキーのシーズンもおしまい、最終滑降は喧噪のアルプスから外れて懐かしい飯豊へ、まだ滑っていない門内沢を選んでみた。S&S=山菜&スキーなどと称して初日は山菜取り、二日目は標高差1280mの爽快な滑降を楽しむことができました。

5/26 晴れ

このところのパターンで寒気が入り夜半からは激しい雨となり、「またか～」と少し気重になる。翌朝、重たい雲間から日が差し始め好天が伺える、やっと爽やかな春山が楽し



めそうだ。梅花皮荘手前の駐車スペースは結構にぎわっている、ここに車を止め出発。



スキーとスキー靴を背負うとズッシリとくるが、玉川の瀬音と光に彩られた新緑の森、残雪の山々、そして山菜、重荷も忘れてよい気分で歩いた。

飯豊山荘の先で除雪は終わっており、所々残雪を踏んで梅花皮沢の出合へ新緑のブナ林の中を歩く。大きな堰堤を越えると広々とした河原にでる。遠くに稜線が白く輝いている絶好の景色、ここにBCを設けた。時間もあるので偵察兼山菜取り、登山道は残雪に覆われてわかりにくいところもあるので、梅花皮沢に入るには少しコツがいる



かもしれません。

山菜はタラの芽、コゴミ、フキノトウ、カタクリ、オオバキスマレ、アマドコロなどで



種類が少なく少し季節が早かったかも。それでも天ぷら、炒め物、おひたしなど焚火を囲んで工夫の料理を楽しむ、稜線からの風が心地よく良い気分…と突然、三人に下痢が…吐き気も腹痛もなく、ただお腹のものがすべてでてしまった感じ。次第に治まったので大事はなかったが「何が当たったのかな？」アマドコロ⇔ハウチャクソウ？カタクリの食べ

過ぎ？などが思い当たりそうなところですが反省です。

5/27 快晴

3時半起床、下痢も治ったので元気に山菜うどんを食べて出発。偵察のおかげで迷わずに進むが、スキーを背負っているのでブッシュが煩わしい。途中いやらしいトラバースもあるが慎重にいけば問題ない。地竹原付近で雪渓に降り、ここからはシール登高、ひたすら登る。たっぷりの雪でまだまだスキーを楽しめる。滝沢、石転び沢を分け、門内沢へ進むがデブリの跡も納まり雪面の状態も良い。



標高1600m付近から傾斜がきつくなってくるが、雪も適度に緩んできており緊張感はない。最後の50mほどはシールでぎりぎりの傾斜？となり、何とか登りきると門内小屋にぴたりと出た。

数年間、滑降して楽しんだ飯豊

山・北股岳の山や谷、沢登りした胎内川流域の谷筋や二王子岳の展望を楽しんだ。



さあ、今シーズンの締めくくりの滑降だ！緩んだザラメに思いっきりシュプールを刻む。雨溝で多少ガタガタするがこのくらいは良いコンディションだろう、三人が代わる代わる先頭にて滑る、惜しげもなく高度を落とし、変わりゆく景色と風の音を楽しんだ。石転び沢の出合まで標高差1,000mを20分で滑る、ここで大休止。純平君がギ



ョウジャニンニクを見つけたのだ。収穫後、滑降15分で地竹原。ここよりよりスキーを再び背負ってBCへ帰った。BCではギョウジャニンニクを料理し、ビールで乾杯！！
もうそろそろ帰らなくては…BCを撤収して帰路につく。豊かな時間を過した2日間に満足しながら、温泉を目指して再び長いアプローチを下山した。

【行程】 5/26 梅花皮荘 (9:00) -温身平-梅花皮沢堰堤上BC (13:30) (山菜取りしながら) -周辺偵察

5/27 BC (4:45) -地竹原 (5:35) -滝沢出合 (5:55) -石転び沢出合 (6:30) -
門内岳 (10:10-40) -石転び沢出合 (11:00-20) -地竹原 (11:35)
-BC(12:35-13:50)-温身平 (14:00) -梅花皮荘 (15:18)

【地図】 長者原 飯豊山 Photo : Jun

